



資料 3

(3) 経営ビジョンの見直しの 必要性について

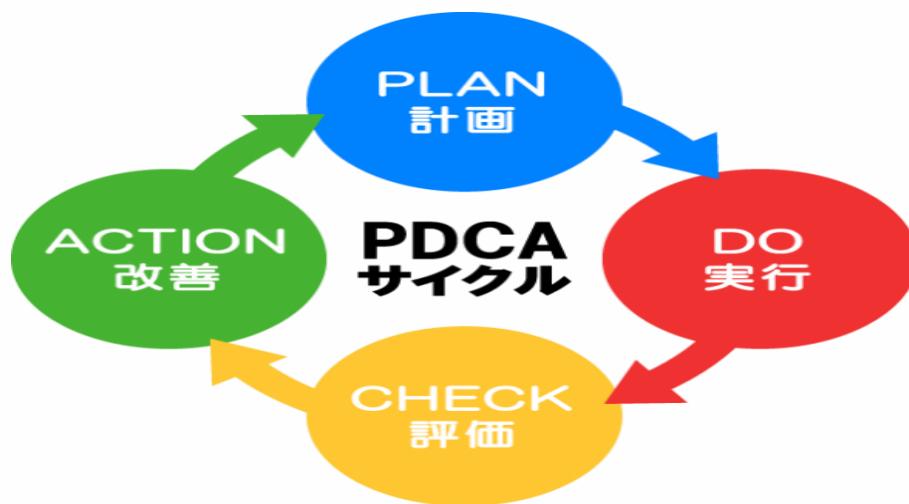
1 見直しの背景

総務省通知（「経営戦略の改定推進について」R4.1.25）

- 策定した経営戦略に沿った取組等の状況を踏まえつつ、PDCAサイクルを通じて質を高めていくため、**3年から5年以内の見直しを行うことが重要**

神奈川県流域下水道事業経営ビジョン（R3.3策定）

- 経営ビジョンの推進にあたり、毎年度、進捗状況等のモニタリングを実施するとともに、中間年（令和7年度）、最終年（令和12年度）に目標を設定した主要施策について、達成度合いを検証し、必要に応じて柔軟に見直しを行う。



2 基本理念等

現行の経営ビジョンで示した内容のうち、

「果たしてきた役割」 や **「基本理念」** などは、普遍的な性質のものであり、流域下水道事業を取り巻く現状に照らして、現行の内容のままで十分に意義があり、**見直しの必要性は認められない。**

章	項目	現行経営ビジョンの内容
1	策定の趣旨、計画期間	・中期ビジョンの改定、10年間（令和3～12年度）
2	果たしてきた役割	・相模川・酒匂川流域下水道の経緯・現状説明、維持管理体制 ・①公共用水域の水質改善、②生活環境の改善、③低廉な処理費用 ④地球環境への貢献、⑤水再生センター、⑥休みないサービス
3	基本理念	「快適なくらしを支え 健全な水環境を未来につなぎ 経営の安定を図る」

3 主要施策、収支の見通し等

「事業の課題」「主要施策」「収支の見通し」等については、

- ・事故の未然防止に向けた下水管の健全性の確保
- ・脱炭素社会実現や資源の有効利用に向けた取組み
- ・下水道施設の管理・更新の更なる効率化

に関する新たな社会的要請や物価上昇など経営環境の大きな変化を踏まえ、経営ビジョンを見直す必要がある。

章	項目	現行経営ビジョンの内容
4	流域下水道事業の課題	①施設の老朽化の進行、②大規模な自然災害の発生、③更なる温室効果ガスの排出抑制
5	主要施策	①効果的な老朽化対策（改築更新、維持管理の効率化、汚泥の集約処理） ②災害対策の強化（耐震化・耐水化、処理場ネットワーク化（寒川平塚幹線）、危機管理体制） ③環境保全の推進（水環境の保全（箱根小田原幹線）、地球温暖化対策）
6	収支の見通し	全国共通の経営戦略として作成が必要な10年間の収支計画（投資・財政計画） 相模川流域：(支出)建設改良費26%増、維持管理費横ばい、(収入)市町負担金2%増 酒匂川流域：(支出)建設改良費61%増、維持管理費13%増、(収入)市町負担金18%増
7	持続可能な事業運営に向けた取組	①財源（交付金の確保、経費の平準化、経費負担の適正化） ②人材（職員の確保育成、民間活用と執行体制の効率化） ③施設（広域化・共同化） ④検証と見直し（進捗状況のモニタリング、達成度合いの検証）